



プロジェクト名称

## 富浦プロジェクト

### プロジェクト活動概要

本学協定先の南房総市富浦地区において市の協力を得ながら行っている再生プロジェクト。二地域居住推進を目標とし地域活性化を目指す。発足当初は地域との繋がりが無いなか海岸の清掃から始まり、ベンチの制作や竹灯籠祭などの開催を通じ、地域との繋がりを形成してきた。今年度は発足して5年目となり、今までの実績を更に養い団体として活動を拡充させていきたい。

### プロジェクト終了後に目標とする成果・結果 / その進捗

- ① フォトコンテストの投稿作品 100 作品以上を目指し、当該地域の知名度向上、地元住民と観光客や訪問者の交流促進を図り、地域活性化に繋げる。
- ② 現地で行うワークショップ、竹灯籠祭などの企画において来場者は約 200 人以上を狙う。
- ③ オンライン、オフラインを併用した活動、広報活動を行い今までのノウハウを活かし、Instagram の投稿数を昨年より2倍、最大の投稿インサイトは 1500 を目指し地域密着型の学生プロジェクトであることのアピールから現地コミュニティの拡大を図る。

発足当初の学年からの世代交代があったため、コロナ禍前に構築した関係を再構築する段階から再スタートするというところから始まった。企画の立案までは依然と比べて挨拶巡りを兼ねるため時間は要しているが、立案から完了までを行う予定のベンチ制作は、終了の目途が見えてきた。芝浦祭への参加は参加メンバーの予定に折り合いがつかないことから見送るカタチとなってしまったが、その分フォトコンテスト企画への参加メンバーの人員は確保できたため、これから計画を詰めていきたい。



## SDGs への取り組み

## 《SDGs との関連項目》

申請書で選択した SDG 関連項目を表示し、関連しない項目は削除してください（複数ある場合、全て表示。）



8.働きがいも経済成長も

9.産業と技術革新の基盤にしよう

11.住み続けられるまちづくり

12.つくる責任使う責任

13.気候変動に具体的な対策を

14.海の豊かさを守ろう

15.陸の豊かさも守ろう

17.パートナーシップで目標を達成しよう

地域活性化から二地域居住の推進を図るために、身近なところから企画を行い恒例となっているベンチの作成は、参加メンバーと地域の方々のコミュニケーションの場としても成り立っており 17 を満たしていると思う。また新たなベンチのみならず過去に制作したベンチの修復も兼ねており、利用して下さる方もいてベンチという小さなものではあるが私たちなりに 11, 12 を満たせていると考えている。

現地に頻繁に行けないため 14, 15 に繋がる海浜清掃や緑地整備等は行えていないが次回の企画の際にはそちらにも目を向けて立案を考えたい。その他の項目に関して、現状では当プロジェクトにおいて、規模が大きくなるので今後の進捗を踏まえ満たしていきたい。



活動状況報告&活動写真 活動期間：2022年7月7日～2022年10月31日

### 【7月 挨拶巡り】

富浦プロジェクトに在籍するメンバーに発足当初からのメンバーがおらず世代交代となったため、引継ぎも兼ねて富浦地区の協力して下さる方々に挨拶巡りと、立案した企画の説明を行うため OB 同行の元、現地訪問した。

尋ねた場所は南房総市役所で、総務部 企画財政課 企画制作係の2名に対応していただいた。また海岸の自治をしている桧橋会の3名にも企画説明のため対応していただいた。

夏休み中の企画で、過去に実施した竹灯籠祭をやる提案を行ったが、海岸で行うには海風が強く蠟燭の火が直ぐに消えてしまって難航したため実施は危ういという結果になった。蠟燭ではなく電飾を使用する代替案は時期を改めればできるのではないかという話に至ったため保留して検討することになった。(竹の伐採と乾燥期間も加味している。)

ベンチの企画は通り、制作するベンチは過去に学内で行ったベンチコンペで集まった作品の中から下記の作品に決定した。





## 【8月 ベンチ制作メンバーによる現地訪問】

7月の訪問で制作が決定したベンチについて場所やデザイン、材料、費用などの検討をしに制作メンバーが現地訪問した。

ベンチの設置位置は海岸と栈橋が眺められ、且つベンチが完全に固定できるよう地盤面が安定した場所に設置する運びとなった。ベンチからの眺めは下記の写真のようになる予定である。



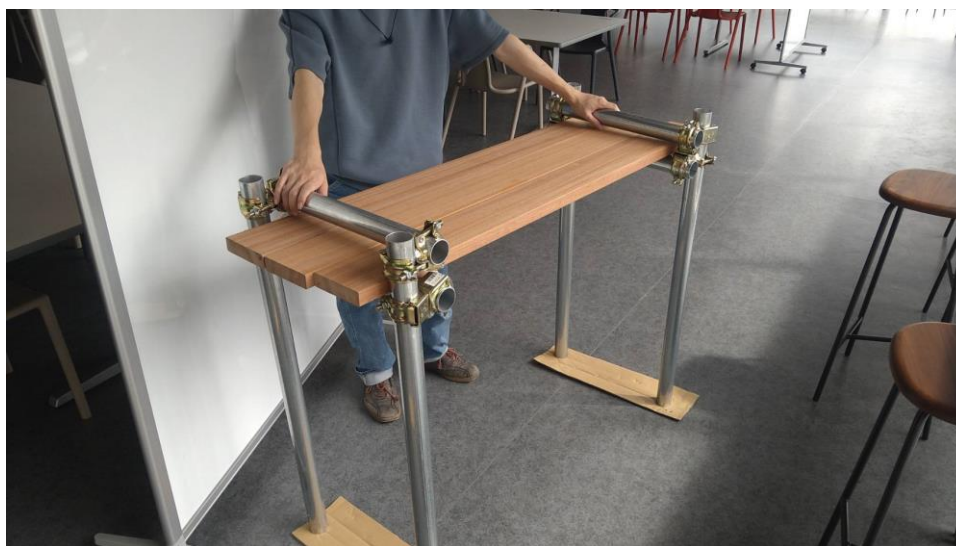


## 【9月 ベンチの簡易的なモックアップ・検討】

現地で組み立てる前に、実際に組み立てる際のプロセスの確認を踏まえて検討を行った。

当初制作予定だったベンチは円形でくり抜きを伴うという形の都合上、自らの手で材を加工することは少々で海岸の砂地に設置することを考慮した時に構造上の問題があるのではないかと話になり、シンプルな四角型の形状でベンチを制作することとなった。

過去に制作したベンチは、あまり塗布加工がされていない木材を使用したため経年劣化による損傷が進行しており長く使えるような状況ではなかった。制作する以上は長く使えるようなベンチをつくってほしいという棧橋会の方々の意見もあり、長期的に使用できるような頑丈で材質も考慮したベンチを制作した。



## 成果まとめ、今後の活動計画など

挨拶巡りからのスタートで企画の実施に至るまでには地道ではあるけれど、コロナ禍で途切れてしまった活動や現地でのコミュニケーションは徐々にではあるが取り戻している段階にあるのではないかと思います。10月31日までの活動では企画は1つしか実行・完了の目途がたっていないが、過去の反省を踏まえて多くの企画をやって中途半端に終わるよりも、立案した企画を確実に完了させるということを重視しているので成果としては、まずまずといったところである。

滑り出しはあまり順調とは言えないが、後半の企画（フォトコンテスト企画）で巻き返しを図りたい。